

車いす選びのポイント

ポイント1 スムーズな移乗・移動・外出で身体機能を向上

寝たきりを予防するためにも、離床が大切です。ベッドから車いすに移乗し、トイレ、食卓、居間への移動や散歩に出るなど、日常生活動作を広げていくことで身体機能の向上はもとより、精神的な自立度のアップにもつながります。

<p>車いすに移乗</p> <p>移乗をスムーズにするには、アームの跳ね上げや着脱など機能付きのものが便利です。</p> 	<p>食卓やトイレ浴室へ移動</p> <p>動線の幅、ドアの開閉方式、段差や家具などの障害をチェックします。</p> 	<p>居間に移動</p> <p>楽な姿勢がとれ、安定感や利用時間などを考慮に入れて、座り心地を確かめます。</p> 	<p>外出</p> <p>外出する前に、悪路、坂道、障害物、人込み、トイレなどを確かめることも大切です。</p> 
---	---	---	---

介護保険では同時に2種類のレンタルが可能です。



室内用として



外出用として

ポイント2 お身体の状況や使用目的に合わせて選べます。


車いすは、大別すると手動式と電動式に分かれます。手動式には、自走用と介助用があります。自走用は利用者本人が腕の力などを利用して走行し、介助用は介助者が後方から操作しながら走行します。

<p>手動車いす</p> <ul style="list-style-type: none"> 自走用 介助用 座位変換型 モジュール型 <p>電動車いす</p> <ul style="list-style-type: none"> レバー操作型 介助型 ハンドル操作型 	<p>自走用車いす</p> <p>後輪が大きい車いす。ご利用者が自分で操作するタイプです。</p> 	<p>介助用車いす</p> <p>後輪が小さい車いす。介助する方が車いすを操作するタイプです。</p> 	<p>座位変換型車いす (ティルト・リクライニング型車いす)</p> <p>背を好みの角度に倒せるタイプ(リクライニング)と、座面と背の角度を変えずに倒せるタイプ(ティルト)があります。</p> 
<p>レバー操作型電動車いす</p> <p>操作レバー(ジョイスティック)を使って、少ない力で運転できます。</p> 	<p>介助用標準形電動車いす</p> <p>介助する方が電動車いすの運転操作を行うタイプです。</p> 	<p>ハンドル型電動車いす</p> <p>ハンドル操作で運転し、時速6km以下で歩道を走ることができる上、運転免許は不要です。</p> 	<p>モジュール型車いす 自走用/介助用</p> <p>各々の部材を組み合わせるため、座幅や座面の高さ、肘掛けの高さなどをご利用者に合わせて変更・調整できます。</p> 

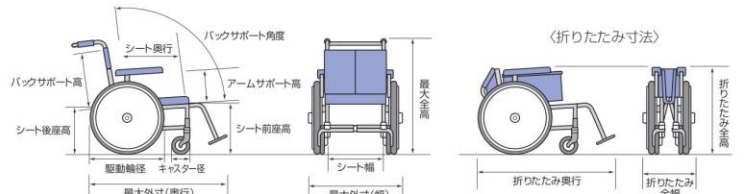
ポイント3 フィッティングのポイント

フィッティングの見方

- 座面の幅はお尻の両側に2~3cmづつの余裕を。
- 膝の裏側から座面のシートまで4~5cmの余裕を。
- 座面の高さを合わせる。
 〈手でこぐ場合〉手で駆動する場合は、下ろした手の先が車軸につく高さです。
 〈足でこぐ場合〉足で駆動する場合は、膝を直角に曲げたときに、足の裏が床にしっかりつく高さです。
- フットサポートの長さ、前後、角度を調整します。
- アームサポートは肘を無理なく曲げた高さを合わせます。



車いす各部サイズの見方



〈折りたたみ寸法〉

すべり(仙骨)座り
ずり落ちするような座り方になると、骨盤の後傾や円背などの変形を生じる可能性があります。

斜め座り
車いすが体型に合っていないと、身体が傾き、ねじれた状態の座り方になります。

床ずれ
身体を動かさない状態で長時間座ったまましていると、床ずれの原因になります。

ポイント4 車いす各部の名称とサポート機能

アームサポート

はねあげタイプ
アームサポートを後方にはねあげることができます。移乗の際に便利です。



取外しタイプ
アームサポートを取り外すことができ移乗の際に邪魔になりません。



高さ調整タイプ
ご利用される方に合わせて高さを調整できます。



グリップ

介助ブレーキ

サイドガード
(スカートガード)

座シート

フットプレート

タックル
ブレーキ

駆動輪

ティッピング
バー

ハンドリム

キャスター

バックサポート

体型に合わせて張りを調整できるタイプもあります。背部にフィットし座位がより安定します。



レッグサポート

スウィングアウト
外に開いたり、取り外せるので、移乗の際に便利です。



エレベーター
脚部の上下角度が自由に変えられます。



ご利用になる方、介助される方の状況や
ご利用の目的に合わせてお選びください。

車いすの動かし方で選ぶ

両腕で
動かせる方は



- ハンドリムのついた
自走用の車いすを

片手、片足で
動かせる方は



- 座面の高さの低い低床型を
- レッグサポートの着脱ができるタイプ

介助で
移動される方は



- 車輪の小さな介助用車いすを
- 介助用のブレーキの付いたもの
- グリップの高さが調整できるタイプ

座ったときの姿勢で選ぶ

座位を保つことが
できる方は



- 身体のサイズに合った車いすを
- 背もたれ・クッションが快適なタイプ

姿勢が
くずれやすい方は



- 座位の保持に配慮した
モジュール型の車いすを

ご自分で姿勢を
変えられない方は



- リクライニング・ティルト機能の
ある車いすを

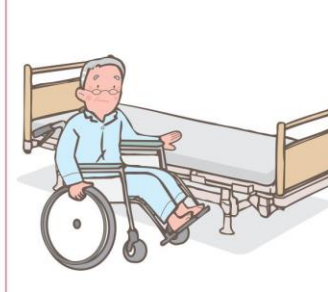
ベッドへの移動方法で選ぶ

立って移動
できる方は



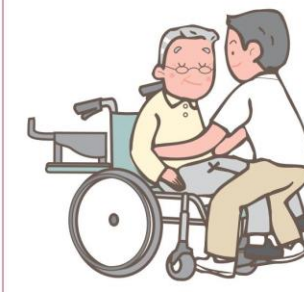
- 立ち上がりやすい座面高で、
座面の角度がきつくないものを

座ったままなら
移動できる方は



- ひじ掛けやフットサポートの
取り外しができるものを

移動に介助を
必要とされる方は



- 車輪の小さな介助用車いすを
- ひじ掛けが取り外しできるタイプ

その他チェックすべきポイント

ご利用の目的は？

- 車いすでどこへ行くか？
- 車いすの使用場所は？
屋内か、屋外か？
- 使用時間はどの位か？
短時間か、長時間か？

介助者の状況は？

- 車いすの操作能力は？
- 介助できる時間は
どのくらいあるか？
- 介助者の体力は？

住まいの環境は？

- 行動範囲は？
- 通路の幅は十分あるか？
- 床の段差はどのくらいか？
- 部屋の広さは
どれくらいあるか？

